

# いづみ

札幌彫刻美術館友の会会報

第7号

平成16年4月1日

題字：国松明日香氏

## 「本郷新生誕100周年記念事業」に向けて 札幌彫刻美術館友の会会長 橋本信夫

日本の近代彫刻をリードした偉大な彫刻家 本郷新は明治38年12月9日(1905年)に札幌市で生まれました。来年、本郷新の生誕100周年を迎えます。そこで友の会はこれを記念し、以下の特別事業を企画しました。

### 「本郷新生誕100周年記念事業」

#### 1 本郷新とその作品に関する論文、エッセー、資料などを収集して特集する。

本郷新の知名度が年々低下する中で本郷芸術に関する纏った出版物が著しく少なく、また詳しい伝記もありません。しかも本郷新の知人や関係者も高齢化しているため、いま新の人柄、作風、制作、設置などの記録を収集しなければ永久に失われ、次世代に語り継ぐことさえできなくなります。

生誕100周年、そして没後20余年を経た今こそ20世紀に生きた彫刻家本郷新の偉大な業績を見直す大事な時と思われまます。

#### 2 道内各地に分布する野外彫刻の画像をウェブ(Hokkaido Sculpture-Web)で公開する。

これまでに仲野会員によって本道の野外彫刻2100余点が既に写真資料化されています。幸いに北大大学院工学研究科の大内東研究室の技術支援を得て、ウェブシステムによる彫刻画像の公開が可能となりました。

そこで札幌彫刻美術館を基点に、道内各地の美術館、作家のアトリエや本郷新などの野外彫刻を結ぶ彫刻ロードナビを構築し、全国の彫刻ファンに向けてウェブによるパブリックアーツの大規模なPR活動を展開します。

以上の二つの記念事業を平成16~17年度の2年間継続し、観光資源としての彫刻美術館を強力に支援する予定です。会員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

終わりに数々のご支援を賜った北大大学院工学研究科システム情報工学専攻 大内東教授と研究室の諸先生に深く感謝いたします。

## 本郷新彫刻シリーズ 7



「石川啄木像」

釧路市入船・港文館前  
ブロンズ・コンクリート、  
H4.5m

96年前の1月26日夜、啄木は釧路に降り立った。当時の釧路はランプと蝋燭の生活で、月に照らされた雪明りの道を浦見町まで歩いた。

## 「つれづれなるままに」

上遠野 敏

最近、浅草駒形の「どぜう」が頭から離れない。よしず張りの床に板を渡したテーブル、藍の座布団、さっぱりした作りの雰囲気が好きだ。

東北の寒村から出て来たような、ほっぺの赤い十代のむすめさんが給仕をしてくれる。お客さんが粋にふるまえるように、あか抜けないうぶが花をそえる。ここは昼もいい。一人でもかまわない。平鍋に奇麗に並べられたどぜうに葱を好きなだけ山盛りにする。葱に湯気がたちあがるころが食べごろだ。山椒を振って喰らう。

江戸の美学は最高潮に達す。「神田の藪」もいい。二方に中庭が見える。女将さんの注文謳いのお調子が蕎麦を小粋なものにかえる。おつである。近くの「まつや」もいい。蕎麦は背筋をピーンと延ばしカーッと引っ掛けるものだ。口直しに蕎麦湯は忘れまい。昼の長居は野暮だ。蕎麦屋は、元来飲み屋だ。日が傾きかける頃がちょうどいい、蕎麦がき、だし巻き卵、ピーナッツの入ったあまからみそ、海苔、蒲鉾、身欠きニンシを肴に酒を傾け蕎麦でしめにする。

西日暮里、王子街道の「羽二重団子」もいい。昼の日中から醤油団子で酒が飲める。餡も絶品。羽二重のような舌触りは日本一と言える。残念ながら、堅くなると味も落ちるので、遠路のお土産には適さない。ちよいと立ち寄るのだ。それがいいのだ。

江戸は粋で鯿背で竹を割った様なシンプルさがある。私は池波正太郎のような食通ではない。物も知らない、訳知りでもない。半可通の田舎者であるがゆえに、江戸の粋や心意気に強くあこがれをいだく。藝大の周りは江戸の名残がある。上野の杜の裏手にある谷中・根津・千駄木を青春のねぐらとしていた。

先日、親しい方から京都の骨董屋さん「てっさい堂」の女主人貴道裕子さんの「伝えたい日本の美しいもの」-「ぼちぶくろ」の素敵な本を頂いた。本の帯に山藤

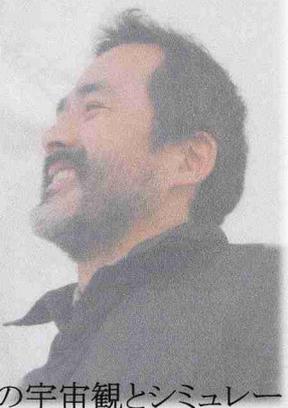
章二さんがこんなことを書いていた。「手渡し

の江戸がある。ぼちぶくろ -この小さな空間に、粋・艶・洒落・笑・心意気などのさまざまな江戸の美学が展開される。この本の頁を繰ると、ぼちぶくろの中は空っぽなのに、とても嬉しく豊かな気分になるから不思議だ。」手渡しにも文化がある。極少の袋に木版で刷られた、美しくも愛らしいぼちぶくろにはまごころがつまっている。お使いの子供の駄賃に、「これでちよいと駄菓子でもつまんでお行き」と、兎の絵柄のぼちぶくろで心付けをする。思いをかたちにしてこころを付ける。なんと美しいことばと行いなのでしょうか。日本人の真性の慎ましさは、お金を裸で渡さない。「ありがとう」と貰い上手に渡し上手、相手を試そうなどと言う思惑が入り込む隙間はみじんもない。そこに発生するひととひとの阿吽の呼吸の中に相手を思う温かなつながりがある。

江戸時代の臨済宗の中興の祖、白隠さんは食餌のお礼に書画・墨跡をさらさらとしたため、字の読めないひとにも絵解きをするように丁寧に説明してあげて功德をし、分け隔てなくあまたの人々に、ぼいとくれてやった。ひととひとの温かなふれあいを物語るものであろう。江戸の美学がある。

私は、日本人としての美しいところと美の観念はどこに行ってしまったのかの思いから、これまで古来から日本人の感性によって作られてきた美意識を検証してきた。自然の畏敬の念から発生した自然神、仏教の宇宙観とシミュレーションとしての展開、移ろう時間を表現する感性の大和絵、心を問う禅の美術、茶の湯の美学など。江戸は小堀遠州の奇麗さび、冲若の超細密画、琳派、白隠さんなどは大いに共感できるものがあつたが、江戸のポップカルチャーと言えるものには、これまで興味もてなかった。浮世絵もスターのプロマイドや名勝の絵はがき程度の認識しか持てなかった。これを契機に、それを媒介にひととひとを繋ぐ江戸の有形無形の粋な文化に着目してみたい。

江戸は身近で遠い。今宵は、酒を枕にお江戸を粋に遊興しましょうか。(彫刻家)



## 友の会の新年会と講演会

(平成16年1月24日(土)不二家にて) 原 寿子会員

今回は当会の前会長を永く勤められた浦口鉄男氏の白寿のお祝い会も一緒に行われ、会員は28名、一般参加7名が集りました。

橋本会長の新年の挨拶「事を始めるにはいつの場合も“わか者、よそ者、ばか者”の力が集まり新しい流れが出来るのです。初対面の時は誰でもお互いによそ者であり、同じ目的に突き進む若い心が大事です。また今年も申年、見ざる、聞かざる、言わざるの三猿ではなく、目を開いて良く見よう、人の話をしっかり聞こう、そして意見ははっきり言おうという姿勢で行きましょう」と話され、会員一同共感しました。

次いで、浦口氏から「百年前の札幌の様子やただ前向きに生きて今がある」とのかくしやくたるとご挨拶に感銘を受けました。この日会場、会員の近藤さんが即席で描かれた浦口氏の似顔絵が額に入れられ、盛んな拍手の中でお祝いの記念として贈呈されました。

上遠野 敏氏の講演の前に、会員の仲野さんから上遠野氏の紹介があり、札幌駅の南口に林立するコンクリート柱のモニュメントが氏の作品であることを知りました。

「楽しく生きる一夢」と題した講演は、ご専門のインスタレーションや彫刻のお話かと思っていたところ意外にも「室町、江戸時代の日本文化の中、禅の心を中心にした茶道、茶道具、茶室、日本庭園、書などに見られる日本人の美意識についての百枚ほどのスライドレクチャー」でした。興味深いお話と共に飾り気の無いお人柄の滲む雰囲気引き込まれました。



余興のクイズ、「ロダンの考える人のポーズについて」で会場は大いに盛り上がりました。

締め乾杯をされた渡辺行夫氏は「ただ無心に石を刻んできたけれど、今はフルマラソンに挑戦している。全く違うことに夢中になることも、人生を生き活きとさせる」と話され、盛況のうちに会を終了しました。

### 目次

「本郷新生誕100周年記念事業」に向けて	橋本信夫	1
つれづれなるままに	上遠野敏	2
友の会の新年会と講演会	原 寿子	3
体験してわかる物作りの楽しみ	石林 清	4-5
平成16年度札幌彫刻美術館行事日程	三輪 望	5
生涯学習と博物館ボランティアについて-1	高橋淑子	6
観光情報学会と友の会	橋本信夫	7
平成16年度友の会総会案内		7
ギャラリーシリーズ-4 弥永ほか移動博物館を訪ねて	原 典夫	8
抜海の日 ・ 彫刻美術館に行こう		8
・“知らない子供から声をかけられたら、黙っているのよ”と教えられている年寄り		9
会員名簿		9
友の会だより・展覧会案内		10

# 「体験してわかる物作りの楽しみ」

評議員 石林 清

長い間、札幌彫刻美術館評議員を拝命しているながら格別の貢献をすることもなく、凡々と推移して来たことを深く反省している次第です。

当館も、創立以来20年をふり返ってみると始めの頃は彫刻中心の美術館は珍しく、また本郷新という高い知名度に支えられていたこともあって多くの入館者を迎え、札幌の地に彫刻というジャンルの施設が出来たことを文化都市の誇りとして、その盛業を当然のこととして運営を見守ってきた。

しかし時を経るにつれ、近年は市内にも多くの文化施設ができて、市民の関心が分散してきたことや交通の便が必ずしも有利とはいえない立地であること、或いは彫刻美術という特色から一度鑑賞したら再訪するという層がかならずしも多くないことなどの事情から、だんだん入館者が減少して来ている。

そこでこの趨勢に歯止めをかけ、入場者の増加をはかることを当面の課題として様々な試みを展開実施している現状といてよい。



このことについては館当局の並々ならぬ苦心と共に支援組織である「友の会」の熱心な活動に心から感謝しているところである。

最近、この友の会の橋本信夫会長から会報に何か一言を…との要請があり、気にしていたところ、ふと読売新聞投書欄、(気流)に「体験してわかる物作りの楽しみ」(釧路市主婦館下美優貴さん(40))と題する一文が目にとまった。

私の望んでいた造形教室のあり方と、賢明な母親の気配りが生々しく表現されていたのでここに紹介することとする。小学生二年生の息子が通う「地域の造形教室」に母子で出席、子供の物作り体験の大切なことに思いを新たにしたい…というものである。

『その日は竹を割って箸を作ることになった。先生はナイフで竹を割ってみせて下さるが、息子は力の入れ方や削る方向が良くないのか、なかなかうまくゆかない。

そんな様子に先生はカンナやヤスリを取り出してきて、様々なやり方があることを教えて下さる。道具の使い方は丁寧に教えてくれるけれども、子供の作業に直接手を出すことはない。最後まで子供が自分の力でやり通すのを根気強く見守って下さった。

悪戦苦闘だったが、息子はそれが出来て本当に楽しかったようであった。

今の子供はナイフで鉛筆を削れない。ボタン一つ押せば、何でもできてしまうような便利すぎる生活の中にいると、親が子供に危ないことをさせたがらない。自らの手で物を生み出す作業は、それ自体が私たちに大きな喜びや楽しみを与えてくれるという大事なことを忘れていたようだ。息子の様子を見て、そんなことに改めて気付かされた。』

短い文であるが子供の将来を想像しながら、その一挙手、一投足をじっと見つめる賢明な母親、教師に対する尊敬の念なども

用語のはしはしに窺われていてほほえましい。

誰も教えてくれず（今の教育）無経験であった二年生のわが子に、初めて「実際に自分でものを見て、手を動かして、考えながらものを作りあげる」という得がたい体験の場を与えてくれた先生や企画者にたいする感謝のメッセージである。

好奇心旺盛な子供たちは、こうした新鮮なものづくり体験を重ねることによって、やがて経験豊かな、有為な成人となり、各方面に活躍できる実践的な人材となること

が期待できるであろう。

彫刻美術館の事業は広範であり、どちらかというが高踏的で難しい面が多い。その中で、当館では教育普及事業として既にやさしい「子供造形教室」などがある。プロの指導によりデッサン会、テラコッタ作り、学芸員の学校派遣事業、地域の人達との交流なども実施されている。芸術の普及を旨とするわが美術館としては遠回りのようだが、ファンを広げるためにもこうした面にもっと力点をおくことが考えられるのではなかろうか。  
(平成16年3月)

## 本館

### 野外彫刻の魅力

1960年代～晩年

3月27日(土)～8月22日(日)

札幌彫刻美術館  
平成16年度  
本郷新  
前期収蔵品展

## 記念館

### テラコッタ展

3月27日(土)～10月11日(月)

#### 散策と美術館鑑賞の会

- ステージ I 5月 8日(土) 春の円山  
II 6月 12日(土) 初夏の大倉山  
III 7月 31日(土) 宮の森彫刻フィールドワーク

#### 教育普及事業

- 5月 5日(水) 子どもデー  
親子デッサン会 10:00～17:00  
6月 29日(火) 「石狩」像を訪ねて 4,000円  
7月 9日(金) 市内彫刻巡り 3,000円  
7月 23日(金) サマーコンサート 18:00～19:00

前期  
行事予定

# 生涯学習と博物館ボランティアについて（Ⅰ）

高橋淑子(会員)

私は現在、近代美術館を拠点とする北海道美術館協力会と動物園の2箇所でボランティア活動をしており、北大の『生涯学習と博物館研究会』の公開ゼミに月に一度参加し、ボランティア活動とはどうあるべきかと日々模索しています。

札幌彫刻美術館友の会では新年度の総会で、『生涯学習と博物館研究会』にて学位論文を取得しようと勉強中の、開拓の村・学芸員の中島宏一さんの講演会も予定されていますので、それに先駆けてボランティア活動の実際を3回シリーズでご紹介します。

はじめに、各博物館でのボランティアの活動を比較します。

	道立近代美術館	円山動物園	札幌彫刻美術館
親睦団体	(社)北海道美術館協力会	動物園ボランティア	友の会
会員数	約1600名	約100名	約100名
年会費	10000円	2000円	2000円
ボランティアの形態 人数	会員であることが望ましい 約180名	会員とは別個募集 約100名	会員の中から任意に活動 15名
ボランティアの活動	7部体制で、売店、解説、 資料整理、広報等	園内の案内と解説	会報発行 資料整理等
ボランティアの活動費	会費・事業収入	動物園から援助	会費
ボランティアの統括	協力会事務局	動物園	友の会
ボランティアの 募集・養成	毎年 美術講座受講生 の中から養成	2年に1度 募集後研修	特になし

表のとおり、それぞれのボランティアに依る活動は三者三様です。

設立27年目を迎える(社)北海道美術館協力会は近代美術館と同時にサポーターとして生まれた独立した団体で、その中から必要に応じてボランティアが組織されてきました。

円山動物園ボランティアは6年前に動物園が募集して生まれ、制服の貸与等すべて動物園の管理下で活動しています。(その中で自主組織はあります)

札幌彫刻美術館友の会ではボランティアというはっきりとした名称は使っていませんが、この会報『いずみ』の発行などで一部の有志によって活動が始められたところ。従来から美術館で資料整理のお手伝いを続けていらっしゃる方もあり、今後、ボランティア活動を広げていく中で組織化を考えたり、美術館とどのようにかわりを持って進めていけばよいのか検討されることになると思います。

次回は全国的に生涯学習と博物館ボランティアを考察します。

# 観光情報学会と友の会

会長 橋本信夫

数年前から北大、札幌市と道が連携し、北海道の基本産業である観光産業の振興を目指した「北海道情報ナビ」構想が進められていた。しかしこれまで観光事業は観光資源、観光者、観光業界、行政からなる巨大複合産業でありながらこれを支える基礎的な学問体系がやや脆弱とされていた。

平成15年9月に北大大学院工学研究科の大内東教授が中心となって全国各地の観光産業を糾合して新しい学問領域を確立し、地域の活性化と観光産業の人材育成を図るべく観光情報学会が設立された。このため本学会には産業界、学会、行政などの観光にかかわるあらゆる分野の人々が参加して観光産業の発展を促すための基本原理の究明、方法論やモデルの確立、実態調査などに活発な研究活動が行われている。

しかしこれまでわが国における観光産業の主な対象は温泉地やリゾートで、地方の美術館、博物館、動物園などの教育・芸術・文化にかかわる施設の観光資源としてのポテンシャル(可能性)は、まだ十分には調査・研究されていない。

友の会では自主運営を開始して満2年が経過し、会報「いずみ」を介した彫刻美術館支援のPR活動も著しく充実してきた。さらに仲野会員の努力によって全道の野外彫刻作品2100余点の写真資料化も進捗して北海道の野外彫刻の戸籍としてほぼ完成の域にまで到達した。

こうしたときに観光情報学会会長の大内東教授と友の会会員が懇談し、学会設立の目的や将来構想について直接お聞きする機会に恵まれた。さらにこのとき仲野コレクションが観光資源としても高く評価され、また仲野会員からこの野外彫刻写真資料の公開に向けて無償提供が申し出られたことから、北大大学院工学研究科の大内研究室においてインターネットによる彫刻画像の検索システム「Hokkaido Sculpture-Web」の基本設計が行われ、この概要が平成16年3月11日に札幌市で開催された観光情報学会総会で発表された。

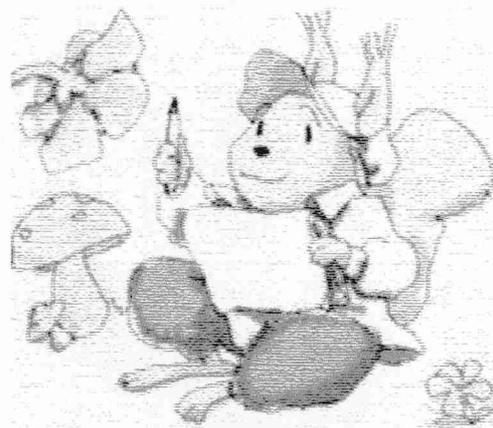
この「北海道彫刻-ウェブ」は、今後システム情報工学の先端技術やGPSを駆使したロードナビと組み合わせられ、札幌彫刻美術館をはじめとする道内各地の美術館、ギャラリー、アトリエ、パブリックアーツに観光資源としての付加価値を与える「北海道彫刻ロードナビ」開発の基盤として活用が期待されている。

友の会ではこのように観光情報学会とも密に連携しながら、平成16年度から開始予定の本郷新生誕100周年記念事業を推進し、北海道の野外彫刻の素晴らしさを全国に向けて発信できるよう会を挙げて取り組みたいと考えている。

## 平成16年度 友の会総会と 講演会のご案内

日時：平成16年5月14日(金)  
場所：札幌彫刻美術館本館研修室  
総会：13時30分～14時30分  
講演会：14時30分～15時30分  
講師：中島宏一氏  
財団法人北海道開拓の村学芸員  
演題：生涯学習と博物館研究会

- \* 当日は昨年同様、「春のなまこ山」を散策します。弁当持参で11時まで本館前にご参集下さい。山頂付近で皆一緒に昼食をとりましょう！
- \* 帽子持参、雨天中止！！



## ギャラリーシリーズ4

### 「弥永北海道博物館」を訪ねて

原典夫会員

「弥永北海道博物館」は、今年85歳になる弥永芳子さんが運営する私設の博物館である。弥永さんは40歳過ぎから、北海道の歴史や鉱物に興味を持って調べ始め、持ち前の好奇心と探究心によって、集めた資料は鉱物や貨幣、砂金、アイヌ民族関係など10万点余にもなったという。これを収蔵するため、20年前自宅を改築し、3階建ての博物館をオープンした。現在ここには常時1万点余の資料が分析整理されて展示されている。

1階は化石、鉱物の展示場。マンモスの牙のほか、たくさんの北海道産のアンモナイトやカメ、植物の化石、鉱物の標本などがある。

2階にはアイヌの衣服や生活用具がいろいろとあるが、和人の絵師が描いたアイヌ風俗画には他所では見られない貴重なものがあるという(今年の企画展はアイヌの暮らしをテーマにする予定)。また、貨幣資料は、弥永さんがこの道に入るきっかけとなった貨幣の歴史について調べた時のもので、古今東西の貨幣がたくさん集められており、北海道の松前藩の藩札、函館通宝などがある。

3階は砂金、砂白金関係資料。これは弥永さんが貨幣に続いて精力的に取り組んだテーマである。かつて北海道に豊富にあった砂金が明治30年以降のゴールドラッシュによって殆ど掘り尽くされたが、ここには道内各地で産出された砂金や当時の砂金掘りの様子が示されている。なお、砂金塊や世界一という砂白金塊、金の太判小判など弥永さんご自慢のお宝は常時は展示されておらず、特別展(今年は5月東京で)に出展されるようだ。

弥永さんは単なる蒐集家ではなく北海道の歴史や貨幣、砂金や砂白金についての研究者として知られ、本もたくさん書いている。85歳の今もなお現役で、はつらつとして執筆や講演に活躍しているのには全く驚嘆させられる。

(所在地:北区北19条西4丁目 Tel:716-1868)

## ▽彫刻美術館に行こう

今、道新の生活面「相馬暁のガンと向き合う」を夢中になって読んでいる。農業後継者の育成に文字通り生命を燃やす先生の、活動できる日が一日でも長くなりますようにと願いながら…。数年前、軽い気持ちで出向いた先生の講演会が、「食と農」だけでなく、文化を含めて、人が心地よく暮らす手立てを考える大きなきっかけになったからである。

先日の新年会で、上遠野敏先生の講演会は楽しかった。「お茶は素人です」と言いながら、素人の会員にも茶道の素晴らしさを存分に伝えてくれたと思う。特別なこだわりのない人間が「ん！」と足を止めたくなるのは、その場、その時に合った柔らかな頭と異質なものも受け入れる大きな器が、何となく安心感を周りに与えるからではないだろうか？

人は誰しも運命のまま、良い流れに乗って感激したり、逆に失望に打ちひしがれたりした経験があるだろう。人が集いたくなるのも、敬遠したくなるのも、磁波のような何か目に見えないものによって突き動かされているのでないだろうか？

遠くても行ってみたい店があるし、高くても一度くらい買ってみたいものもある。そして一方で、コンビニが、ガソリンスタンドが、パチンコ屋が…、目印にしていたものが、いつの間にか消えている。今思うとそれらは何となく、立ち寄りを拒むような、寂しい雰囲気をかもし出していたような気がする。

先日エコ切符の日に、たまにギャラリー巡りをする知人を彫刻美術館に誘ってコケた。「二回も行ったからもういい、近美に行こう。何かやっているでしょう。」幾度足を運んでも期待させる何かがそこにあるからだ！

彫刻美術館の関係者に期待したい。こんなミーハーでも何度も訪れたいような場所になることを！

それにはどうすれば良いのだろうか？

# 抜海の目

▽「知らない子供から声をかけられたら、だまっているのよ」と教えられている年寄り

札幌遺産、都市山の三角山はよく晴れていた。2月21日、まごと連れ立って午後登る。雪がキラキラとまぶしいくらいだ。

三歳のまごに、山道であった人には「こんにちは」とあいさつするんだよ。「うん」。足どりも軽やかに歩く。滑って、ころんで、笑って、立ちあがる。

白っぽいアノラック姿のお年寄りが足早に私達二人を追い越した。「こんにちは」！無言だった。「耳がない人だね」とまご。「そうだね」。三人目に、降りてきた方に出会う。茶色のセーター姿で小さなサブザックを背負ってた。「こんにちは」。「おや元気だね。小学生ですか」！！「三歳です」。「すごいな」。「頂上まで行くの」。「うん」。「よく晴れているから遠くまでみえるぞ」。「ガンバ

ってね」。「ハイ」。はりきり方がちがう。どんとんと七ノ坂を登っていた。「海がみえるぞ」。「お船がないよ」。ここで一休み。ドリンクの黄金水を飲む。「雪ですぐイスがつかれるよね」。「おじいちゃんもすわって」！「リスがないね」。三分も座っただろうか、登りだす。

また降りてきた人に出会う。「こんにちは」。無言！「聞こえなかったのかな」。「お耳が不自由なんだ」よ。と私の答え。足を取られてころんだところにきて、「ボクって元気だ」。「ハイ、「頂上はもうすぐだぞ」の一声で張り切った。

三角山の頂上は青空が手にとれるように低く見えた。二人だけだった。

「街の型は何ですか」？「四角」とまご。辺りは大きな〇。満足そうだった。小さなドリンクを美味しそうに飲んで、カリントウを一本食べて頂上の雪をビニールの袋に二人で入れた。「家に帰ったら雪を溶かして絵を描こうね」。「うん」。ころげ落ちるように下山した。

## 平成15年度札幌彫刻美術館友の会会員名簿

*藤島 積	米川由美子	伊藤幸子	橋本洋一	高橋美紀	馬場房子	築井 朗
*寺山敏保	大竹明子	沖中順子	鈴木敏夫	桑原昭子	遠藤盛夫	田山登代美
*前川一彦	高津多香子	伏木忠了	山崎治雄	宮地香代子	橋本邦江	大竹保廣
*三輪 望	濱 久子	浦澤正三	池田美恵	森田佐和子	笹波 瑩	渡辺洋子
*浦口鉄男	今泉省吾	浦澤价子	大西美智子	弥永禎子	佐藤セツ子	富岡 圭
橋本信夫	長谷川信子	斎藤公美夫	鳴海 孝	手島睦子	原 典夫	佐藤美子
斎藤美年子	小笠原年子	伊藤末子	谷村一美	細川正人	吉田二郎	瀬川洋明
仲野三郎	木下啓二	斎藤澄子	遠藤和恵	榎本真澄	加藤邦子	石林恭子
三上正一	福沢益子	大久保志絵子	佐々木安枝	石井英夫	新木葉子	ダム・ダン・ライ
高橋淑子	日埜悦子	菊地満代	小澤美智	松野誠夫	鈴木光弥	渡辺行夫
野崎泰男	野尻洋子	北明邦雄	小尾 陞	宮沢英次良	宮田釜久代	生越敏子
鈴木敏明	大橋泰子	柴田淳子	浪岡豊明	宮沢佳子	吉村 巳	白戸啓子
吉田修子	栗村玉恵	山内美智子	坂口雄一	金子美枝子	鈴木貞司	平野 香
原 寿子	米永繁子	金井重博	堺 房子	井形則子	菊地博盛	佐藤ゆり子
岡本憲子	秋山真澄	永井濛子	石崎貞子	近藤健治	島 正孝	船迫吉江
山本 緑	森 茂樹	織田寿子				*印:顧問

# 友の会 だより

祝

祝受賞!!

札幌彫刻美術館初代館長  
原子 修先生

現代ポイエーシス賞と地域文化功労賞の二つを文化庁から受賞されました。

長年の幅広い地域文化への貢献によるこのご荣誉に心からお祝い申し上げます。

\* 原子修先生受賞記念祝賀会  
3月27日(土)18時～、  
ホテルライフオート札幌

## 友の会の活動記録

- 平成16年1月14日  
彫刻美術館表敬訪問  
三輪館長さんとの正月対談 橋本、高橋
- 1月23日  
札幌市経済局観光コンベンション部観光振興課訪問:  
北海道観光ナビなどに関わる情報交換:  
a 友の会の近況紹介、  
b 観光情報学会と市の関係  
c 北海道観光ナビ構想について  
観光振興課:児玉  
友の会:橋本、仲野、斎藤
- 2月4日  
彫刻美術館訪問:友の会の近況説明  
橋本、大竹、榎本、船迫、
- 2月11日  
北大大学院工学研究科システム情報工学専攻複雑系工学講座で大内東教授と懇談  
a 観光情報学会と友の会との情報交換  
b 仲野会員の野外彫刻資料のWeb化  
c 観光情報学会への参加 橋本、浜、斎藤、三上、仲野、大竹、榎本
- 札幌市市民局生活文化部訪問:友の会の現況と特別事業の紹介及び意見交換  
a 本郷新生誕100周年記念事業企画  
b Hokkaido Sculpture-Web の公開と彫刻ロードナビ構想および観光情報学会への参加  
c 札幌彫刻美術館との交流と支援の現状  
文化部:久田、渡辺  
友の会:橋本、仲野、斎藤、三上、高橋、原

## 展覧会案内

### 第26回 日陽展

[日本画・油彩・水彩・切り絵・工芸・造形]

事務局:近藤健治(友の会会員)

後援:札幌市教育委員会

会期:2004年4月14日(水)～18日(日)

(am 10:00～pm 6:00 - 最終日 pm 5:00)

札幌市中央区南2条東6丁目

(011-271-5471)

札幌市民ギャラリー 第1～2室 入場無料

## 彫刻美術館友の会ホームページ

斬新な企画を  
ご期待下さい

<http://sapporo-chokoku.jp>

### 編集後記

2002年4月に発足した新生友の会もはや3年目を迎えます。

多くの方々に支えられての会報作りも順調に進み、お陰様で第7号を発行することができました。

またこの度は思いがけなく、北大学術交流会館で3月11日に開催された第1回観光情報学会総会で、友の会も発表の仲間入りをさせて頂きました。

本郷新の生誕100周年記念に合わせてこれらの企画が全国に発信され、札幌彫刻美術館の存在感を示し得ることを嬉しく思います。(斎藤)

札幌彫刻美術館友の会 会報「いずみ」No. 7

財団法人札幌彫刻美術館内

編集責任者 濱久子

〒064-0954

札幌市中央区宮の森4条12丁目

電話とファックス:011-642-5709

平成16年4月1日発行

編集委員の連絡先:電話とファックス

斎藤美年子:011-643-7246

濱久子:011-893-5212